

小学校

ある児童との出会い。出会う前に名簿を見た時から名前が印象的で、どんな子なのかとても楽しみだった。始業式の日、初めて会った彼はとても明るく話しやすい子だった。「先生、先生」といつも話しかけてきているんな話をした。しかし生活面では、おしゃべりが大好きで話も聞かず人の邪魔をしてしまう、宿題はやってこない、直もしない、そんな日々が続く、2学期のある日、彼に対してきつく叱ってしまい、次の日、彼は学校を休んで、保護者から「もっと褒めてやってほしい」と連絡がきた。私はできる限り褒めているつもりだったので、これ以上何を褒めるのかとても悩んだ。

2、3日休んだ後、登校してきた彼は何事もなかったように「先生」と話しかけてきてなんでもない話をした。その時私が真面目な顔で、なぜきつく叱ったのか、今どんな気持ちで目の前にいるのかを伝えると彼も真面目な顔で「これから頑張る」と言った。3学期、彼は「みんなの見本になる」ことを目標に頑張っていて、私は真剣に向き合っていて悩むことと、気持ちを伝えることの大切さを改めて感じた。

小学校

はじめは、毎日毎日全力で、がむしゃらに走ってきました。周りの先生に「しんどいけど、頑張ろうね。」とたくさん励ましていただきましたが、その時は、自分が何に困っているかもわからず、一生懸命になれる日々がとても楽しかったです。数カ月経ち、少しずつ学校のリズムがわかってきたころ、ぼんやりと周りの先生方がおっしゃる「しんどさ」がわかってきたような気がしました。それは、自分がしなければならぬことが具体的に見えてきたからだと思います。様々な科目の授業のこと、子どものこと、保護者のこと、教室環境のこと、学級づくりのこと、目に見えるほど、とてもしんどくなりました。ですが、すべてやろうとせず、まずは一つから、長い目で見ることによって気持ちが楽になりました。つい遅くまで残っていた時に、先輩の先生にふと相談をすると「わかるわ～」とずっと話を聞いてもらい、アドバイスをもらいました。研究授業で悩んでいるときは、同期の仲間と一緒に準備をしてくれたり、頑張れとエールを送ってくれたりしました。そして何より、クラスの子どもたちが、一生懸命ついてきてくれます。保護者の方も、頑張りを応援して下さります。抱え込んでしまうこともありますが、人とのつながりを一番大切に、一つ一つのことに對して一生懸命になる心があれば、どんなことも乗り越えられると思います。一緒に頑張りましょう♪

中学校

約 1 年間を教師として過ごす中で、苦しいことも楽しいこともありました。そのすべてが、人間関係—教師と生徒、教師と保護者、教師と教師—の中でのことばかりでした。あらためて、教師という仕事は人間関係が中心の仕事なのだと実感しました。

2 年生に飛び込んだ私にとっては、既に 1 年間分の人間関係が構築されている中で、去年の状況がなかなかつかめない状況でした。学級内でのルールを決めること一つでも、「1 年の時はこうだった」「去年はこれしてもよかったのに…」という生徒からの言葉が後を絶たない状態で、私自身何が《正しい》のかが分からなくなってしまうこともしばしばありました。ですが、先輩の先生方がどのようにされているかを聞き、さらに、生徒たちの言葉をたくさんのヒントとして耳を傾けていくと、何が《正しい》のかを考えることよりも、何が生徒にとって《最良》なのかを考えられるようになってきました。

また、保護者との関係も、初任であることや年齢の違いから、お話することが困難な場面が幾度もありました。ですが、その度に、学年の先輩の先生方に助けていただきながらなんとか担任を続けることができました。もちろん、殆どの保護者の方々は初任である私を温かく見守ってくださいました。

すべてが人間関係のなせる業だと実感すると同時に、たくさんの人に支えられて初めて成立するのが教職という仕事だと思います。人との繋がりを大切に、頑張っていきたいと思います。

中学校

教員をしていて最もやりがいを感じるのは、生徒の成長に触れた瞬間だと思います。ただ実際のところ、そんな瞬間になかなか出会うことはできません。ただ出会うことができないのは、教員が成長の瞬間を見逃しているからではないかと思います。毎日のように生徒と関わっていると、ある意味生徒の成長が当たり前になってしまいます。近くにすぎても、単純に気づけなくもなってしまいます。もちろん、生徒は日々成長しています。1つの行事を終えれば成長です。1時間授業を受けて新しい知識を身に付けただけで成長です。だれかと喧嘩しても成長です。だれかに謝っても成長です。そんな日々の生活の中で垣間見える生徒の成長を見逃さないようアンテナを張り続けることが本当に大切なのだと、この一年間で学びました。

そのアンテナは、時に折れてしまうこともありますが、きっと何度も立て直すうちに、生徒が立ててくれるようになると思います。まだまだアンテナを立て直す日々が続いていますが、それでもこの仕事についてよかったと思える瞬間を探していきたいと思っています。

小学校

豊能地区で先生になるみなさん。合格おめでとうございます。ついに春から、先生として子どもたちの前に立つときが来ますね。今の時期は、期待と不安で胸がいっぱいではないでしょうか。一学期は本当に右も左も分からず、何をしたらいいのかわからない日々が続いて、「自分はむいていないのかな」と思うことがあるかもしれません。けれど、それはみんな同じなので安心してください。時間が経つにつれて少しずつ仕事に慣れていくと思います。困ったときには、一人で抱え込まず周りの先輩の先生方がいつでも助けてくれると思うので気軽に相談したらいいと思います。

また、毎日子どもたちと過ごす中で、運動会や学習発表会では、最初はどうなるのか心配になることもありました。最後には、涙が出るくらい素晴らしいものを子どもたちが披露してくれます。こんな涙を流せる職業は先生だけだと思います。

辛い、しんどいと思うことがたくさんあると思います。そんな時には、子どもたちと休み時間に遊んだり話をしたりしてください。子どもたちの笑顔はすごいパワーを持っています。子どもたちとともに支え合いながらがんばってください。応援しています。

小学校

私自身一番つらかったことは、クラスで毎日トラブルが起きたり、子どもが自分の言うことに反発したりする日々が続いたことです。その時は本当に周囲の先生方に支えられました。自分の不甲斐なさや情けさを感じている私に、「自分を責める気持ちもすぐわかるけど、子どもはみんな育てていくものだから、あなたのせいではありませんよ。一人で抱え込んではいけませんよ」と声をかけて下さったり、子どもと距離をおく時間を設けて下さったり、私が最初の段階でもっとこうしていればと後悔していても、周囲の先生方はこれから先のことを常に一緒に考えて下さいました。

この経験を通して初任者になる先生方に伝えたいことは、2つあります。1つ目は本当にしんどいときや子どもとうまくいかないときは周囲の先生方に相談して力を借りるということです。自分に責任を感じることも大事ですが、子どもにとってはどういった手立てがよいのかを考えると周囲の先生方の力を借りることは本当に必要なことだと思います。2つ目は初任者とはいえ、自分が今まで生きてきた経験の中でこれだけは許せないことや貫きたい信念をきちんと持ち続けることです。

1年目は失敗もたくさんあると思いますが、その中でも自分にしかできないことを一つでも多く見つけてそれを精いっぱい全うしてほしいと思います。

小学校

豊能地区の初任者の皆様、教員経験がある先生もない先生も様々な方がいらっしゃると思います。新しく赴任した学校では、優しい先輩方がたくさんいます。「わからないことは聞いて」と言われることもあるかと思います。しかし、はじめはわからないことがわからないという状態なので、私からは2つのメッセージを送ります。まず1つ目は、「つい教えたくない人になろう」ということです。教えたくない人の条件は、「素直さ・愛嬌・実行力」です。先輩教員の方々はたくさんアイデアを持っていて、それを自分のものにできれば成長につながります。2つ目は「報告・連絡・相談」です。その中で、最も重要なのは「相談」です。「ハウレンソウ」と語呂よく読むので、報告が一番重要だと思われがちですが、報告とは結果です。良い結果も悪い結果も過程が大切で、現状を相談できるような関係性を作っておけば、悪い時はそれ以上悪くならず、良い報告をたくさんできるようになります。そうすると、仕事があまくいようになってきます。仕事は一人でできる人が優秀ではありません。「子どもたちの成長」という大きな目標に向かってチームワークよく取り組んでいくことが大切です。

小学校

1年間周りの先生方や保護者の方にたくさん支えていただき、学校の行事や日々の授業に取り組んでこられました。悩むことや反省が多い日もありましたが、振り返ってみると学生の時に想像していた何倍も、毎日楽しく過ごすことができました。一番悩んだことは、「わからない」という理由から何事にも消極的になってしまうことです。ただ、周りの先生はいつも質問しやすかったり、話しやすかったりする雰囲気を作ってくたさるので、少しずつ積極的に動けるようになってきました。また、まだまだ分からないことも多いですが、「できるようになったこと」もとても多いということを周りの先生から気づかせていただきました。できない、わからないと自分を責めることも多かったので、1年を通して私やクラスのことを気にかけてくださっていた方がどれだけ多かったかということに改めて気づくことができました。学生の時に様々な学校でボランティアをさせていただいた際に、先生同士の温かい雰囲気を感じたこともあり、豊中市で働きたいと志望したので、本当に夢がかなって嬉しく思いますし、今後も、少しでも他の先生たちの力になれるよう、そして子どもたちの学校生活を楽しく充実したものにできるよう努めたいと思います。

小学校

私は、採用前に 3 年間講師を経験させていただきました。しかし、この1年でその3年にも勝るほど多くのことを学んだと感じています。講師の時と大きく変わったのは、やはり初任者指導の先生に直接指導していただけること、研修の機会が保証されていること、学期に一回の研究授業があることです。今までほかの先生の話の聞いたり、本で読んだりしたことを自分なりに実践してきたつもりでしたが、自分の指導する場面を見て直接指導していただけることにすごく安心できます。

私は、自分のやり方にこだわってしまうところが自分の課題だと感じていたので、この1年はいろいろな助言をできるだけ多く実践してみて、自分のものにしようと思っていました。様々な助言をいただく中で、自分の中にない新しいものを取り入れることができたと思います。そうすることで、今までになかった視点で物事を見ることができたり、子どもとのかかわり方も変わったりしました。ぜひこれからの1年は、どのような立場であっても今までの経験にこだわることなく、たくさんのことを学んでほしいと思います。

小学校

採用合格おめでとうございます。初任者としての1年間は、わからないことだらけで、不安になることもたくさんあると思います。わたし自身も、授業のこと、子どもとのことなど、1年間を振り返るとたくさん悩んだな、と思います。それでもどうにか1年やってこられたのは、同期の仲間が話を聞いてくれ、先輩の先生方が相談に乗ってくださったからだと思います。

つらくなったときは、必ず話を聞いてくださる先生が近くにいるはずですよ。うれしいこともつらいことも、抱え込まずに話をできる仲間を大切にしてほしいと思います。

小学校

物語文の授業で、毎日毎日必死で教材研究をして、次の日授業をして、課題がいっぱい残っての繰り返しの日々の中で、子どもたちに国語科としての理解が図れているのかという悩みがありました。その後の単元のテストでは、点数は取れたものの、他の物語だったら取れないのではと悲観的に考えてしまう時もありました。そんな時にある児童が、宿題の作文のなかで、「最近本を読むのが好きになってきて、原作を買いました。」と書いていました。たったその 1 文だけで、長かった教材研究が報われたような気がしました。まだ 1 年目の終わりで、教師とは何かを語るには早すぎると思いますが、こういう何気ない子どもの成長を見ることが、教師のやりがいの一つであると感じました。

子どもが成長することを楽しみにして、子どもたちと毎日笑いながら過ごせる日は楽しいです。子どもたちが大人になっても、良い意味で記憶に残る先生になれるようにがんばりましょう。

小学校

4月、夢がかなってそわそわした気持ちで小学校に勤めることになりました。どんな仕事かなあとワクワクしていましたが、1日でそのワクワクした気持ちは無くなりました。職員室で紹介されて自分の使う机に座った瞬間に職員会議が始まりました。もちろん何のことかわからず困惑し、話の内容は全く入ってきませんでした。終わるとすぐに周りの先生方がバタバタと動き出し、何をしたいのか分からないまま、クラス分けや当番表の作成などが進んでいきました。私何もわかっていないので、初任者指導の先生や学年団の先生に、ほとんどのことをして頂きました。未だにあの時期に何をしていたか分からないほど慌ただしく1学期を過ごしました。しかし、1学期を経験したことで少しずつ見通しが持てるようになり、2学期からは徐々に自分が担任としてすべき仕事や学年の取り組みなどに参加できるようになりました。

慣れてきて自分の中でのルーティンが出来てくると余裕ができ、子どもたちとも交流することが多くなってきたように思います。1学期は本当にしんどくて涙を流してしまうことがたくさんありましたが、周りの先生方に相談に乗っていただいたり、子どもたちからあたたかい手紙や折り紙などのプレゼントをもらったりしたので、この1年間頑張ることができました。

4月の初めの一週間は職場になれることに必死でしたが、今のあたたかく、楽しい雰囲気職場に出逢えて、今では楽しい日々を送っています。私は夢を抱きすぎて、夢と現実との差に心が折れかけてしまいましたが、今では「やっぱり小学校の先生になってよかった。」と思っています。

期待と不安でいっぱいだと思いますが、気楽にして、これから一緒に、がんばって働いていきたいと思います。

小学校

現場でともに働く先生方は、教育への強い情熱を持っていて、とても仕事に熱心です。経験の豊富な先生方は、私たち初任者や若手をいつも温かい目差しで見守り、困っていたら優しく声をかけ、問題の解決に向けて一緒に悩んだり考えたりして、親身に寄り添ってくださり頼りになります。また、若手の先生方は真面目で研究心が高く、後輩想いで初任時の不安や悩みなどを聞いて共感したり、ご自身の近い経験を話してくださったりして、私たちに勇気を与えてくれます。「一人じゃない。」ここでは安心して働くことができます。近々、みなさんと一緒に笑顔で仕事ができることを心待ちにしています。

小学校

何もかも分からないことだらけで不安な毎日だと思いますが、同期の仲間や周囲の先生方はみんなあなたの味方です。教師はさまざまな人の温かさを感じられる素敵な職業だと思います。

日々の業務、初任者研修や初任者の課題、授業づくり、学級づくり…言葉では言い表すことのできない程忙しく、潰れそうになることもありました。家についてそのまま玄関で寝てしまうほど疲れ果てたり、仮眠をしてから帰宅したりすることもありました。でもこうして今子どもたちの前に立っているのは、それ以上にやりがいのある仕事だからです。「先生と出会って、この子が変わりました」という保護者からの熱い応援メッセージ。「お友だちにきつかったあの子が、自分から困っている子を助けに行っていたよ」という同僚の先生からのうれしい報告。辛いことの先に待っていた幸せに気付くことができたのは、多くの人の支えがあったからです。すべての人との『出逢いに感謝』！

小学校

教師の仕事は、毎日が目まぐるしく、とても楽な仕事とは言えません。しかし、人と人との繋がりを感じ、人のあたたかさを感じることでできる素晴らしい職業だと、この1年で思いました。なにも分からないことからのスタートは、とても不安で、自分自身が情けなく感じました。

しかし、様々な面から助けてくださる先生方や、素敵な人格をもった子どもたち、頼りになる保護者の方々のおかげで1年を乗りきることができたと心から思います。「採用されたから先生になった」のではなく、「子どもたちと実際に関わり、周りの先生や保護者、そして子どもたちから学ばせてもらい、「徐々に先生になっていく」ことを、身をもって感じました。

私は、教師になって1年経っても、まだまだ失敗ばかりの毎日を過ごしています。しかし、失敗しても、あたたかくフォローしてくださる人たちが周りにたくさんいます。そんな素敵な人たちがいる環境で、共に頑張りましょう。

小学校

学校現場は、非常につらいところだと思います。経験が浅い先生は、それを如実に感じることでしょ。しかし、それを補って余りあるほど、子どもたちから元気をもらうことができます。休み時間に子どもと関わっている時、行事の中で成長した姿を見せてくれた時、職員室で他の先生方と今日あった子どもの面白い話を語り合っている時、子どもたちが日々の感謝の気持ちを言葉にしてくれた時。こちらが努力すればするほど、子どもたちは態度で返してくれます。こんなにつらく、こんなに楽しい職場は他にはないと思います。一緒に頑張りましょう！

小学校

「子どもと初めて出会った3日間は『黄金の3日間』である」という言葉を、研修や勉強会の折に何度も聞いていましたが、私がその言葉を本当に理解できたのは6月でした。黄金の3日間にどう子どもと関わるか、同僚の先生方の話を聞いて参考にさせてもらったり、研修や勉強会で学んだことから自分なりに工夫したりしてその3日間を過ごしたと思っていたのですが、6月になり、子どもと教師の関係ができてくると、自分が想定できていなかったところ、伝え方が足りなかったところ、教師としての「隙」が露わになり、「『黄金の3日間』は本当に黄金なのだ」「今からその足りなかったところを補うことは相当難しいのだな」と感じました。

後になって気づいてももう遅く、子どもたちに苦しい思いをさせてしまう日々が続きました。その中で助けてくれたのは同僚の先生方でした。自分の経験を話していただいたり、アドバイスをいただいたりし、たくさんの温かい言葉をいただく中で、自分の周りには心強い経験者たちがたくさんいるのだということに気付いたことと同時に、自分ひとりで解決しようとしすぎていた、困ったときにすぐに相談するべきであったと反省しました。

私にとってこの1年間は、あの時こうしておけばよかったと反省することがたくさんありましたが、同時に自分の足りないところを子どもたちが教えてくれ、同僚の先生方に支えていただいた、実りの多い一年でした。きっと初任者のみなさんもこの一年はそれぞれの学びがあると思います。初任だからこそ学べること、聞けること、味わえることもあると思います。もしかしたら私のように、少し時を経てやっと気づけることもあるかもしれません。でも自分自身が本当に気づくことができからの『黄金の3日間』もあります。

中学校

この1年間を振り返った今の正直な気持ちは、「きつかったな」です。もちろん教採に受かり、夢だった教師という職業につけたことはこの上ない喜びでした。日々の生活の中に楽しい、幸せだ、と感じることもあります。しかし、覚悟はしていたものの教師という仕事は思っていた以上に大変で、落ち着いて1日を過ごせることがなかなかない様な日々です。毎日のように失敗をして反省をし、自分の力不足にうんざりすることも多々あります。私にとっては修行の1年で、自分自身の内面を見直す機会にもなりました。まだまだ修行は続いていくことだと思っています。

よって、私からみなさんへ有意義なメッセージを伝えることはできないとは思いますが、やはり教師という仕事は素晴らしい仕事だと思います。何人もの生徒と関わるのは大変ですが、子どもたちはかわいいです。自分の好きな数学を伝えられることも楽しいです。また、大げさかもしれませんが、未来の日本を支える子どもたちを育てることは、未来の日本を作ることに繋がっているのではないかと思います。そんな自分の立場に誇りを持って共に頑張っていきたいと思います。

中学校

講師としての経験もないまま、何もわからず4月から働き、あっという間に1年が経ちました。はじめのうちは、「わからないことはなんでも聞いてね」と声をかけていただいても、何を聞けばいいのかわからないくらい、未知の世界でした。でも、周りには「たぶん何がわからんのかもわからんよね」と優しく私の気持ちを理解してくださる先輩の先生方がたくさんいました。今思えば、わからないことはとにかく何でも、どんな小さなことでも気にせず質問すればよかったな、と思います。職員室には、教えることが好きな先生方がたくさんいるので、きっと丁寧に教えてくれますよ。

また生徒も、こちらが歩み寄れば返してくれる(まだまだ伝わらないこともたくさんありますが)、本当にかわいい存在で、毎日生徒に笑わせてもらっています。それに、学生時代に「もう1回やりたい!」と思うくらい楽しかった行事を、大人になってまた生徒たちと一緒に経験できる、とても楽しみどころの多い仕事だと思っています。しんどいことも多いですが、その分嬉しいことや感動させられることも多いので、それを楽しみに頑張りましょう。

中学校

☆迷惑をかけるのが当たり前 ♪♪

児童・生徒の前に立ったら、ときには「先生(自分)では分からん。隣のクラスの先生に聞いてみるわ」などと、素直にまだ先生も勉強中だと明かすことも必要でしょうが、ほとんどの場面では毅然とした態度でふるまわないといけないと思います。そこは折れてはいけません。ダメなものはダメと言い続けましょう。

ただし、一步職員室に入れば、他の先生に迷惑をかけまくってください。どうすればいいか抱え込まずに相談し、明日のことで分からないことがあれば、聞きにいきましょう。先輩の先生も忙しくしているかもしれませんが、遠慮なく(でも見た目には遠慮深く)聞きましょう。そのことが、結果的に、もっと大きな迷惑をかけなくて済むことになるはずですよ。最初は分からないので、聞くのが当たり前です。どんなに煙たがられても、聞きに行くのが仕事です。

「よく分からなかったけど、適当にやったら何とか乗り切れたわ」

そんな経験が常態化すると、児童・生徒に見透かされ、よくない方向に向かいます。

「無理はしても、無茶はするな」毎日準備して、ともに頑張りましょう。

小学校

今思えばあっという間の一年でしたが、渦中にいるときは、本当にしんどくつらいこともたくさんありました。先が見えず不安だった時、周りにいてくださる先生方の温かい励ましが大きな支えになりました。一人じゃないんだという安心感が、前へと進む希望になりました。

こんなこと言ったらどうかなと思うような小さなことこそ話してみると解決の糸口になることがあります。報・連・相の大切さを身をもって感じました。一人で抱え込まず、クラスの子どもたちにとっても必要な知恵が得られ、またチャレンジしてみようと思えました。

「何があっても次につなげたらいい」というアドバイスで、ふっと肩の力が抜け、もっと長いスパンで見えていこうと思えるようになりました。失敗やうまくいかないこともあるけれど、それと同じくらい(それ以上の)嬉しいことや楽しいこともたくさんありました。だからこそ今日まで続けることができたと思います。

ピンチは、チャンス。あきらめずにコツコツと取り組んでいけば必ず光が見えます。初心を忘れず今日という日を大切に、これから始まる教員人生を楽しみながら取り組んでいきたいです。

中学校

今年度は教員生活の中で一番勉強させていただけた1年となりました。

私は講師をしていたため、おおまかな学校業務の流れや授業の進め方も経験していました。今まで経験があるがゆえに「こういうものだ」と決めつけて、なかなか自分のやり方を省みる機会がなかったように思います。しかし、初任者となり勉強させていただく立場となったことで、授業面でも生徒指導の面でも新しいことに挑戦することができました。特に授業面では、生徒たちがおもしろいと思う授業づくりを意識して、ICT教材やグループワークを授業に取り入れて展開しました。すると授業中の生徒たちの表情が変わり、「この国の人たちはどんな暮らしをしてるんやろう?」「なんで万里の長城が必要なん?」と生徒から意欲的に学習に取り組むようになりました。なにより生き生きと自分の考えを話し合う生徒の姿を見て、こちらも授業が毎時間楽しみになりました。

また初任者となり、楽しかったことのひとつに初任者研修があります。毎月初任者研修で同期の仲間たちに会えることがなにより楽しみでした。互いに励まし合い、刺激し合える存在ができたことが自分の成長にも大きくつながりました。今後、教員生活を続ける中でも切磋琢磨し、悩みを語り合える一生のつながりができました。みなさんも初任者の同期とすてきな関係を築いてください。

この1年できっと新しい自分に出会えるはずです。みなさんの挑戦を応援しています。